

## 〈ラクシアーのお宝シリーズ〉リプレイ 第二グループ編 第1話「夢の始まり～巨大海賊船、現る！～」

### ・前書き

皆様どうもこんにちは！初めましての方は初めまして！〈ラクシアーのお宝〉シリーズ GM のぺんタコスでございます！この度は本書をご覧頂きありがとうございます！

本書は〈ラクシアーのお宝〉シリーズ1話の別グループ作品となっております。セッション内容としましては第一グループの物と同一になります。PL さんが変わるとセッション内容がどう変わるのか…編集前の GM としてもドキドキです。

尚、あらすじや登場人物に関しては、TRPG ONLINE 様の〈ラクシアーのお宝〉シリーズの項目に掲載しております。そちらも是非ご覧になっていただければと思います。

さてさて、今回はどんなセッションになりますやら…はじまりはじまり～！

### ・セッション開始&自己紹介

GM:お、こんばんは～皆早いですな！

GM:さて、お時間前ですが、揃ってくださったので開始しましょうか？

一同:はい！

GM:さて、改めまして、今回はセッションへのご参加、ありがとうございます。まだまだ GM としては未熟ですが、少しでも楽しんでいただけたらと思います。よろしく願います

一同:よろしく願います～

この時、結構ベテラン勢が多くてビビりまくってる GM ペンタ…頑張れオイラ…ひっひっふー(謎

GM:さて、では導入の前に、PC の自己紹介をしていただきたいと思います。

では上から！**ユーリィ**どうぞ！

**ユーリィ**:「あたしの名前はユークリウッド・イラクリオン。親しい奴からは**ユーリィ**って呼ばれてる」

**ユーリィ**:「近くの小さな村に住んでたんだが、あたしはそんなところで一生を終える人間じゃないと思って、冒険者として一旗揚げるために、ダーレスブルグに来たのさ」

**ユーリィ**:「ル＝ロウドの神官で、いつもフラフラしてたんだが、今はそよ風亭に腰を落ち着けているよ」

**ユーリィ**:以上です

一同:パチパチパチ～

ル＝ロウドって自由な感じでいいよねえ…。いつもティダンかサカロスカル＝ロウドで悩む GM がここに一人。

GM:ではお次、**レン**さんお願いします！

**レン**: (プレイヤー発言) 作成中

**ゲンマ**: (プレイヤー発言) wtkk

**ジャック**: そんなに気合が……^^

**レン**: 「僕、シュトラーレンカノーネ＝ヴェルーンフィッツて言います。ガン使いです」

**レン**: 「冒険者になったのは、師匠に成人になったので一人で生きていけと言われて追い出されたからです。ヨロシクお願いします」(・ω<) テヘペロ

一同: パチパチパチ～

**レン**はエルフのマジシューさん！エルフは弓ってイメージが固まっている頭カチカチな GM には刺激的な PC さんです！勉強させてもらおう…。

**レン**: (プレイヤー発言) こんな感じで良いですか？

**GM**: おっけーです！では続けて**ゲンマ**！行ってみましょう！

**ゲンマ**: OK！ そんじゃあいくぜよ！！

**ゲンマ**: 「わしの名前は**ゲンマ**、えー、**ゲンマ** アエスターズじゃっけか。ああ、自分でよう分かったらんのはガキの頃の記憶がブッチンブッチンちぎれてるからじゃ。記憶喪失って奴じゃのう、ワハハのハー」

**ゲンマ**: 「でもある日であった奴が言うにはわしゃあ家出して以来行方不明じゃったって話で未だ両親はわしを捜しとるらしい。まあ 自分が何者か分かりゃあせん以上帰れと言われても帰れんからのう、ま、ケセラセラってやっちゃ」

**ゲンマ**: 「ちなみに自分が誰かも分からん間から拳と歌で生計立てとった。そのお陰かちよつと柄悪い付き合いには自身があるきに。よろしゅうな。」

一同: パチパチパチ～

**レン**: (すごく暗そうな過去持ちの割りに明るいな～この人……両親生きているだけ良いな～)

**ゲンマ**: ちなみに出で立ちは見ての通りアロハに眼鏡に海パンじゃ!

アロハ眼鏡が素敵なシャドウさん！この飄々としたキャラは PT のいいカンフル剤になりそうだな～と思いつつ…しかしスゴイシャドウだ(笑)

**ジャック**: ではつきー

**GM**: ほい！お願いします！

**ジャック**: 「あっしの名前は**ジャック**でやす。軍人の家系に生まれて鍛えられやした」

**ジャック**: 「でも戦争で負けて最近まで投獄されてたんでやす。サバイバル訓練のときのマシュマロの味が忘れられないでやす」

**ジャック**: いじよ

一同: パチパチパチ～

**ジャック**はルンフォのファイターさん！マシュマロ好物のルンフォ…いいです。そのギャップは非常にアリです！

GM:では最後！リュウをお願いします！

リュウ:「僕の名前はリュシアン＝サウスオール！」

リュウ:「将来有望のソーサラーさ！」

リュウ:「冒険者になったのは狭い村の中じゃ僕の知識欲を満たせないからさ！」

リュウ:(プレイヤー発言) こんな感じでどうでしょ？

一同:パチパチパチ～

レン:(モフモフ……)

リュウ:「やめろよー！」

お手本の様なタビットソーサラーのリュウ。今回もモフモフ出来るぞ～わーい！…うちの卓はシャドウとタビットを招く何かがあるのだろうか(笑)

GM:はい、皆さん素敵な自己紹介ありがとうございました！いやーキャラ濃くていいですね～。GM も負けずに頑張るぞっ！

#### ・舞い降りるショーウィ・ガレオン、集うはメイドカフェのスペシャルメニュー！？

GM:さて、それでは導入に入りたいと思います。

GM:皆さんは、オレンジの○で囲ってある橋の国「ダーレスブルグ公国」にいます。

GM:皆さんはそこにある小さな冒険者の店「桜舞うそよ風亭」に集まった、駆け出しのPTです。

GM:ちなみに、店の主は、この店の看板娘でもある「コトリ・ホワイティア」

GM:明るくて器量も良くて料理も美味しい、冒険者達の心のオアシスです。ちなみにこんな子。(画像ペタ)

GM:両親が蛮族に殺されてから、一人で店を切り盛りしているぞ！

リュウ:(、、、、かわいい)

レン:(露出度高くない？)(＼▽＼)

ジャック:メイドカフェですね

ゲンマ:きゃわいいのう、こりゃあ入り浸ってまうわ～

今日もコトリさんの人気は絶好調！！ってメイドカフェじゃないよう。冒険者の店だよ…。イラスト、頑張って描くからね、もうちょっと待ってね(泣)

GM:さて、時刻は朝。皆は思い思いに朝食を摂っている所からスタートしましょう。

ゲンマ:わしらはもう知り合いでええんか？

GM:いいですよー！皆さんは駆け出しPTって事になってます

ジャック:「ロボビタンDをおくれやす」

コトリ:「はい！ちょっと待ってくださいね」にこっ

レン:「あるの!？」Σ(°ロ°;

リュウ: (ニンジンガジガジ、、、

ゲンマ:「スパムじゃ！スパムサンドにソーセージじゃ！ないならスパムじゃ！」

GM:コトリ「はいはい！すぐに用意しますね～」ぱたぱた

レン:「僕はミルクとトーストで」

リュウ:「お姉さん、ニンジンおかわり！」

コトリ:「ふふっ、皆さんが来てくれてから、お店が賑やかで嬉しいです♪」

GM:皆が次々に注文をする中で、コトリは楽しそうに仕事をしています。

ゲンマ:「いや〜悪いのー、男臭い連中で」

ジャック:「別にあっしらがいなくても、街の若い連中が行列作ってやすぜ、姉さん」

リュウ: (おいしそうにほうばっている

GM:コトリ「はい、ロボビタミンDとスパムとトーストミルク、おまけにニンジン二本、おまちどおさまです」ま  
とめてひよいひよい

ゲンマ:「そーいやわしら一番乗りじゃったのー。泊まり客の役得かの、むほっ」

皆、メニューが独特過ぎる！（爆笑）しかし涼しい顔でそれを出すコトリさんはやはり素晴らしい……料理  
上手設定にしといてよかったね。お嫁さんにほしいね！（力説）

GM:そうして皆が楽しそうに食事をしていると……お店が急に暗くなりました。

リュウ:？なにになに？

コトリ:「あら？」

レン:「!？」

ゲンマ:「なんじゃ？魔動機でもぶっ壊れたか？」

ジャック:「月は……月はでているでやすかあああ」

GM:突然の事に驚く一同。急に暗くなったのは、突然空が陰ったからみたいです。外に出てみますか？

ゲンマ:出てみます。「なんじゃなんじゃ？」

リュウ:同じく外に出ます「なにになに？」

ジャック:「テーブルの下に避難」

レン: (プレイヤー発言) 窓から外の様子を確認

GM:では、外にでたゲンマとリュウ、窓からみたレンは、信じられない光景を目撃します

レン:「飛行…船…？」

リュウ:口を大きく開けてあっけとしている

ゲンマ:「なんじゃありゃあ、船を腹の下から見るなんて普段ないこっちゃで」

GM:そこに現れたのは、巨大な帆船。大きな大きな船が、空をゆっくりと移動しています。

リュウ:「こんな大きな飛行船初めて見た、、、」

レン:「なに あれ？」

**ゲンマ**:GM,普段この辺を飛行艇が航行する事はある事ですか？

**GM**:いいえ、ありません。突然のことなので、国民も驚いているようです。

**ジャック**:「あの時と同じでやす。恐ろしいことでやす」(ガタガタブルブル)

**GM**:街の人々や、皆さんが呆気にとられていると、船から突然声が聞こえました。

**レン**:(.｡.)キョトン

??? :『あー、あー、マイクテスマイクテス』

**レン**: (カッコ悪 )スコッ

**GM**:船から聞こえる声。マジテックである**レン**は、それが魔動機文明の技術を使われていることが分かります。

**ジャック**:「マイク=デス軍団が襲ってきたでやすううう」

**ゲンマ**:「いや、アレそういう事ちゃうと思うで」

**リュウ**:「僕もそう思う」

??? :『おれの名前はキャプテン・ペンティアー。この船、“ショーウィ・ガレオン”の船長をやっている』

**レン**:「とりあえず なんでしょう？ 芸人？ 派手ですが」

**ゲンマ**:「ニヤニ！？おひねりの取り分は渡さへんで！」

**ジャック**:「見逃してほしいでやす、あっしカシュカーンに従兄弟が住んでるんでやす～」

**ペンティアー**:『とある目的で、協力者を求めたい。ん～そうだな…海岸でいいか。そこに船を泊める。興味がある奴は来てくれ！』

**レン**:「何 あれ？ 船員募集告知？」

**GM**:海賊船はそのままゆっくりと移動し、ダーレスブルグの少し南の海岸に移動して、動きを止めました。

**ジャック**:「今のうちに逃げるでやす。これがラストチャンスでやすよ～」

**GM**:オレンジの点あたりに、ガレオンが止まっています。(漆黒の砂漠)そこに、丁度**ユーリイ**が帰ってきました。

**ユーリイ**:「おう、全員いるみたいだな。しかし、今のはなんだったんだい？」

**ゲンマ**:「おお、**ユーリイ**見とったか？ えらい事件やったでえ」

**レン**:「あ、**ユーリイ**さん おかえり」

**リュウ**:「**ユーリイ**おかえりー！」

**レン**:「事件といふかなんなの？アレ？」

**ジャック**:「なんまんたぶなんまんたぶなんまんたぶ」

**ゲンマ**:「主に**ジャック**が機能不全や。」

**レン**: (何故 念仏?) Σ(°д°;) 又オ!?

各々のリアクションも非常に独特！いいですねえ～本当に濃くていいです！GM はにやにやしなながら話を進めちゃうぞっ！

**GM**:皆が慌てふためいていると、店の奥から音が鳴ります。

**コトリ**:「あら？ちょっと待っててくださいね」

**ユーリイ**:この店主結構図太い？

レン:>ユーリイ（プレイヤー発言） それくらいの度胸ないと冒険者の宿の店主やれないかと

GM:音を聞いたコトリは一旦裏に戻ってなにやら話し込んでいます。どうやら通話のピアスの音だったようです。さて、話を終えたコトリは、皆の所に戻ってきます。その面持ちは、真剣です。

ゲンマ:「何じゃ？」

コトリ:「皆さん、たった今、ダーレスブルグ公国から依頼が入りました。」

ユーリイ:「へえ、コトリ。何かいい儲け話かい？」

レン:「なんか顔がマジッて……え？国から ホント」Σ(°Д°;) 又オ!?

ジャック:「依頼って通話のピアスで来るもんなんでやすか。すごいでやす。」

コトリ:「本当に緊急時の時だけなんですけどね。ちょっと、私的に」

リユー:「さっきの船に関する事かな？」

コトリ:「そうです。先程の海賊船の情報を、出来るだけ多く仕入れて欲しい。報酬は一人500Gです」

レン:「情報収集ですか」

ゲンマ:「ふむ、あのけったいな海賊船の調査で500Gねえ、太っ腹なようなケチ臭いような……」

ユーリイ:「まあ、あたしらみたいな駆け出しにはちょうどいい額だろうねえ」

コトリ:「公国側も混乱していて、可能な限りの情報が欲しいそうです。ただ、状況が状況なので、危険を冒さない程度に、との事です。」

レン:(金ほしいんでありがたいんですけど いいのかな～)

ジャック:「あっしは早く1800G貯めないといけないんでやす」

リユー:「海賊船に関する情報かあ、気になるなあ、受けてみたいなあ(チラッ)

ゲンマ:「危険を冒すなどと言われて冒さないなら冒険者って商売は大分楽じゃき！でもちょっとあの船には行ってみたいのう」

ユーリイ:「よっしゃ！！その話、乗ったよ。」

コトリ:「ユーリイさん、ありがとうございます。他の皆さんはどうですか？」

ジャック:「海賊船でやすか？まあ、変形しないなら怖くないでやすが」

レン:(変形……キラキラ)

ジャック:「船のうちに沈めるほうがいいでやすよ」

ユーリイ:「合体変形は……ロマンだねえ……」

変形……キラキラ。……実装しようかな(笑)

ゲンマ:「わしゃあ海の男じゃあ！海賊とだって腹あ割ってハナシ付けちやるわい！ ……出来るだけ暴力沙汰はなしで！」

レン:「危険がない程度なら……言っときますけどスカウトの心得 僕ないですからね」

GM:では皆さん、依頼を受けるという形でよろしいですか？

一同:「はい！」

コトリ:「ありがとうございます。皆さん、くれぐれも無理はしないでくださいね」心配そうながらも、元気よく皆を見送ります。

ジャック:「もちろん危険なことなんてしないでやす」

リュウ:「いってきまーす！」

GM:さて、ここで何か買い物しようと思えば可能です。まだ買いたい物ある～という人は言ってくださいな

レン:(プレイヤー発言) ない

ジャック:お金ない^^

ゲンマ:(プレイヤー発言) ない

リュウ:(プレイヤー発言) 50Gじゃあねえ

GM:ですよね～。では出発という事にしましょう。

う～ん…今度から前金とか用意した方がいいかもしれない。同じ内容でもセッションで学べる事は違いますね～

### ・潜入、邂逅、逆さファミリア？

GM:では、皆さんは半日掛けて、先程の帆船が泊まっている所まで、特に大きな脅威に出会わずにやって来ました。

GM:さて、宙に漂う巨大帆船。近くでみると、ますます巨大であることが分かります。

リュウ:「改めて見てみても、、大きいなあ」(内心かなりわくわくしている)

ユーリイ:「しかし、大きいねえ…」

レン:「でかい」

ゲンマ:「デーハーと海と…まあわしのアイデンテテをよう潰してくれるやっちゃで…」

GM:皆が思い思いの印象を抱いていると、船からまたあの声が聞こえます。

??? :『おーう、やっときたか。もーちよいで昼寝する所だったぜ』

レン:(昼寝してればいいのに…)

ジャック:「見つかったでやす!？」

リュウ:声の特徴は分かりますか？

GM:>リュウ はい、分かります。そよ風亭で聴いたときと同じ、若い男の声ですね。

ゲンマ:(返答に困るのう、まさか国からの依頼とも言えんし)

レン:(プレイヤー発言) 自分らと船員+男の声以外に回りに人気ありますか？

GM:>レン ありませんね。船の甲板にも人気は無いです。

レン:(あれ？甲板にも人気ないんだが？みんな休憩中???)

ユーリイ:「はっはっは!! ゆっくり寝てるといいさ。その間に船はあたしらのもんさ」

ゲンマ:「ちょっと! 何言っちゃってんのよユーリイちゃん! 冗談きついでホンマ!」

??? :『まあまあ、そういきり立つなって。とりあえず上がってこい。大事な話は顔を合わせて、ってな』

GM:その声と同時に、船から縄はしごが下ろされてきます。

ユーリイ:「ほーう…」

ジャック:「変なところでケチってやすね」

リュウ:「あやしいなー(でも行きたいなー)」

ゲンマ:縄梯子に罾が仕掛けられてない事をこっそり確認します

レン:「罨……？」

GM:ほい、ならば罨感知判定でもしてみますか。達成値は5

GM:【罨感知判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

一同:ころころ……全員成功！

ゲンマ:ファンブルじゃなきゃ成功や

ユーリイ:そうだ、ラック唱えておきます(行使成功)

GM:はいはい。おっけいです

プリーストは信仰神によって固有魔法があるから逐一チェックしないとなあ……。しかしラック……なんと便利な……。

GM:罨などは仕掛けられていないようです。加えて縄はしっかりとしており、皆が同時に登っても大丈夫そうです。

ゲンマ:真っ先に上って行きます。多分一番危機対応能力があるのが自分やし

ユーリイ:「ふむふむ」

ジャック:「じゃあっしは最後で」

リュウ:「いやいや、僕が最後で」

レン:(プレイヤー発言) 4番目くらいで

ユーリイ:「あたしが二番手かい？」

ゲンマ:「こういう状況で真っ先に死ぬのって先頭としんがりやで」

リュウ:>ジャック「おじさん戦士なんだから前のほうでいいでしょ！」

GM:ではでは、皆が順番を気にしながら登ると、船の中に出ました。登り終えた皆に、話しかける声がします。

??? :「お待ちしておりました、皆さん」

リュウ:探索判定振ってみてもいいですか？

ゲンマ:武器は構えないけど警戒はしてます

GM:ほいほい、達成値またまた5

GM:【探索判定】(スカウト or レンジャー or ミスティックLv+知力B+2D)

一同:ころころ……成功！

GM:ではでは、皆が声の方に目を向けると、1羽の鳥がとまっています。

ユーリイ:「なんだ？使い魔かい？」

レン:「あんたが、“キャプテン・ペンティアー”か……って鳥？」

??? :「お初にお目に掛かります。私、キャプテン・ペンティアーのファミリア、名を“エスト”と申します。以後、お見知りおきを」

リュウ:「、、鳥が喋ったあ！」

レン:「(しゃ、しゃった～～???)Σ(°Д°;)」(ファミリアⅡだと?)

ユーリイ:「自我がある!？」

ジャック:「鳥が喋る分けないでやす。きっとトリックでやす」といって鳥のさかさまにしてボタンを探します。

エスト:「疑う理由も尤もですが、トリックでもなんでもありません…」ゆさゆさされながらも冷静に返す。

リュウ:「調べつくしてやんよ」と一緒に探します

ユーリイ:こいつをぶん殴れば船長やれるか?

ゲンマ:「インコだかオウムだか人の声をまねる生き物が居るっつーのは知っとるが、それがコイツかのう?」

ジャック:「電池入れるのはここでやすかね。ぐりぐり」

エスト:「で、電池なんかないですよ。マスターは優秀なソーサラーですから…あれでも」

ゲンマ:>ジャック「やめんかい!最初っから喧嘩売ってどないすんねん?」ツツコミチョップ

ユーリイ:「よーし、ジャック、そのままそのまま捕まえておけよー」

エスト:「やれやれ、ではこのままキャプテンの所までご案内します。そこの通路をまっすぐすすんでいただけますか?」エストは逆さまにされながら、翼で通路を指します。

レン:「案内 ありがとうございます」ペコリ

GM:「恐縮です」逆さでペコリ

レン:「キャプテンは飛行船もちだし マギテックかと思ってんですけど 兼業?」

ゲンマ:「まあ海賊やし、箔つけるのに丁度ええんちゃうん?」

エスト:「マギテック技能は…はて?マスターも、使う技能と使わない技能の差は激しいので…」

ユーリイ:「ふーむ…」

レン:「(兼業数多いの)Σ(¯ε¯;|||…」

リュウ:「ほかに優秀なマギテックでもいるんじゃないの?」

レン:「それもそうか」

しかし皆、慎重な割にはエストでめっちゃ遊んでますね(笑)

GM:さてさて、エスト(逆さ)に案内されると、いかにも船長室、という所に案内されました。

リュウ:(どきどき)

エスト:「マスター、皆さんをお連れしました」

???:「おう、皆まとめてごくろーさん。…お前大変そうだなーエスト」

エスト:「…白々しいです、マスター」

レン:「どうもヤジウマー号です」

ユーリイ:「あんたがキャプテン…なんだっけ?」

ゲンマ:「キャプテン…トルティーヤとちゃうか? パンナコッタ?ん?ごっちゃになってもうたわ」

レン:「いやいや 使い魔なんですし 視覚共有してるんじゃないか?」

ユーリイ:「トカルチョだっけ?」

ジャック:「キャプテン、ドンタコスでやすよ」

リュウ:「キャプテン=タコス?」

???:「はっはっは、面白い奴らだな~。ま、ともかく先に自己紹介だな」

ここまで名前を間違えられると…いっそ清々しい。

ペンティアー:「改めて、俺はキャプテン・ペンティアー。この船“ショーウィ・ガレオン”の船長にして、“ヴェルダール海賊団”の団長だ」

ジャック:「なんだ、マイク=デス軍団じゃなかったでやすか」

ペンティアー:「あ？そんな奴いたっけな～？この前ケンカ売ってきたから適当にキャノンぶっ放した船はあったが」

ユーリイ:(プレイヤー発言) >GM その名前に聞き覚えはありますか？

GM:>ユーリイ では見識判定しましょう。達成値16

GM:【見識判定】(セージ or バード or アルケミスト Lv+知力B+2D)

一同:ころころ…失敗！

リュウ:あんまり有名でない？

ユーリイ:六ゾロ以外無理じゃないですかーw

ゲンマ:そこは知る人ぞ知って言うところやないの

エスト:「まあ、あんまり知名度高くないですしね」

ペンティアー:「そっかあ知らないかあ…結構長くやってんだけどなあ、海賊」

リュウ:「この船は船長一人で操作してるの？」

レン:「他の船員さんは？」

エスト:「他のクルーは諸事情で出ておりますので…今いるのはマスターと私だけです」

ジャック:「今までどんなことやってきたでやすか？」

ゲンマ:「いやあ～自分海の男と言っても浜専なもので～」

ユーリイ:「ふーん。それで？その海賊団の船長があたしらに何の用なのさ」

レン:「(空飛んでるし 空賊のような？ ゴロ イメージ？それとも普段は海で航海?)」

ペンティアー:「う～ん…よし。纏めて質問に答えよう。今回の話にも絡むことだしな」

ユーリイ:説明カモン

ペンティアー:「で、話の前になんだが…お前等、“ラクシアーのお宝”って知ってるか？」

ジャック:「一つなぎの秘法でやすな」

ちっがーう(笑)皆、海賊ネタだとぱっと思いつくのかな～？まあ、今や全世界で人気だしね～

レン:(プレイヤー発言) 知ってる判定？

GM:ほい、見識どうぞ！達成値8！

一同:ころころ…成功！

GM:ほい、では共有メモに情報載せましょう！

ユーリイ:意外と知られてるのか

【ラクシアーのお宝】

古いおとぎ話に出てくる空想の産物。この大陸全てと同じ価値があるとされている。

リュウ:「知ってるよ。でも古いおとぎ話の空想のものでしょ？」

**ユーリイ**:「ああ!!あの、おとぎ話のか」

**ペンティアー**:「おとぎ話なんかじゃないさ。俺はあるって信じてる」

**リュウ**:「(うさんくさいものを見る目で見ろ。)」

**ゲンマ**:「まあまあ、一応聞くだけ聞いてみようや。頭から否定するのはおいちゃんいかんと思うで」

**レン**:「ぶっちゃんけ この大陸そのものってオチじゃあないですよな？」

**ユーリイ**:「ほほう!!ロマンだな!!」

**ペンティアー**:「で、俺はずっとそのお宝を探して世界中を飛び回ってきた。そして情報を仕入れた結果、この辺りにあるんじゃないかって思って降りてきたってわけだ」

**ゲンマ**:「ふむふむ、その根拠は？」

**ペンティアー**:「ああ、北の方で面白い本を見つけてな。しかし、ガレオンのメンテやら書物の解読やらで忙しくてな。俺の代わりに調査とかしてくれる奴らを探してたんだわ。」

**レン**:「自分の部下じゃあダメなんですか？ 人手が足りないんですか？」

**リュウ**:「なんだか危なそう、、、」

**ユーリイ**:「なかなかいい奴じゃないか。で？あたしらの取り分は？」

**ゲンマ**:「とどのつまり探索の依頼に来たってこっちゃん。海賊を自称してるの除けば普通の依頼と変わらんけどなあ」

**ペンティアー**:「そういうこった。で、当然報酬もある」

**GM**: キャプテンはパチンと指を鳴らすと・・・

**GM**: どさどさどさ~~~~~！大量の金銀財宝が、皆の前にどさどさ降ってきます。

**リュウ**:「!!!!??!!」

**レン**:「あら!？」

**ゲンマ**:「何やこれ!？」

**ユーリイ**:「おお!!」

**ペンティアー**:「この船に積んであるお宝、占めて10億 G。お宝が見つかったら、これをお前等に分けてやる」

**ユーリイ**:「よし乗った!!」

**ジャック**:「そんな。おいらはザルツ地方がもらえればそれでいいでやすよ」

**ゲンマ**:「こりゃあ・・・噂に聞くバウムガルトでもこれだけ持つとる奴はおらんで・・・」

**リュウ**:「こここんなにもらっちゃっていいの!？」

**ペンティアー**:「ああ。俺はお宝が手に入ればそれでいいからな」

**リュウ**:「で、でも騙されないもんね！全部あげるって言わないと信じないもんね！」

**ゲンマ**:「探す宝がおとぎ話が情報ソースってのが問題やな」

**ユーリイ**:「一応、財宝の見識判定と真偽判定してもいいですか？」

**GM**: どうぞどうぞ。達成値はどっちも6

**GM**:【宝物鑑定判定】(スカウト or セージ Lv+知力B+2D)

**GM**:【真偽判定】(冒険者 Lv+知力B+2D)

一同:ころころ・・・両方成功！

**GM**: ほい、全部達成値クリア。お宝は全て本物であり、キャプテンも嘘を言っている様には見えません。

ジャック:「とりあえず前金に1割ほどもらえるでやすかね？」

レン:「それに…依頼なら冒険者の宿通してもらわないといけませんし」

ペンティアー:「ん～…よし、じゃあこうしよう」キャプテンはポンと拍手を打ちます

ペンティアー:「お前等の冒険者の店に連れて行け」

ペンティアー:「お前等の冒険者の店に、俺が細々とした依頼を出す。もちろん、さっきの10億とは別個に報酬金を用意する。これでどうだ？」

ゲンマ:「成る程、ルールを介在させるってことか。こりゃあ信用せざるを得ないのう」

ユーリイ:「ほほう。悪い話ではないと思うが…」

ジャック:「冒険者の店だなんて。すぐに王宮にご招待するでやすよ」

ゲンマ:「ジャック手のひら返すん速いのー」

レン:「単なる依頼主なだけな気が…」

ジャック:「(もともとの依頼は海賊船の情報収集でやす。首領を捕まえていけば依頼クリア。ボーナスももらえるでやす)」

ペンティアー:「まあ細かい話は気にするな！俺も久々に陸で酒が飲みたいしな！はっはっは！」豪快に笑う

レン:「なんか王宮のほうで騒ぎになってましたね ここに来る前に見たかぎり」(嘘

ユーリイ:「責任を問われそうだなあ」ニヤリ

リュウ:「そうそう、大変な騒ぎになってたね」

ゲンマ:「そういうこつたらちよい参ったのー。こつちの話をすべきか否か」

ユーリイ:「>ゲンマ 「なんだい？」こそこそ

ゲンマ:「ぶっちゃけこいつを連れてる次点で王宮に捕まる危険性もあるってこつちや。」こそこそ

ユーリイ:「だよなあ…でも財宝は欲しいしい…」

ゲンマ:「じゃあちよつと聞いてみるか…」ホソ

レン:「>ゲンマ 「コトリさんが僕らの身分保障してくれそうで大丈夫のような」コソコソ

ジャック:「(じゃ、みんなでコイツを王宮に連れて行って捕まえるでやす。その間にあつしが戻ってきて財宝確保するでやすよ)」

皆、キャプテン相手に怯まないな～。というか交渉術が上手い…。(滝汗)

ペンティアー:「あ？そうなのか。う～ん…んじゃ、エスト。頼むわ」

エスト:「…やれやれ、またですか」ため息をついて窓から飛び立っていく

ペンティアー:「これでよしつと。んじゃ、ダーレスブルグ行くか！」

レン:「船動かすんですか？」

リュウ:「…危なくない？」

ペンティアー:「ああ。ガレオンをダーレスブルグの近くに泊める。エスト使ってアルフレートに連絡頼んだからな」

ユーリイ:「…なんか、シャレにならない名前が出たんだが」

レン:「アルフレート？ 部下の一人ですか？」

GM:(にやりん♪) ほい、ではアルフレート見識いってみよう！達成値5

ユーリイ:2D6+3 合計:13 <5,5>+3

レン:2D6+5 合計:17 <6,6>+5

リュウ:2D6+5 合計:16 <6,5>+5

ジャック:2D6 合計:7 <2,5>

ゲンマ:2D6 合計:10 <6,4>

GM:出目凄いな～

ユーリイ:出目スゲーw

GM:てなわけで共有メモにドン！

【アルフレート三世】

ダーレスブルグ公国現国王

リュウ:あ、国王じゃん、、、

ユーリイ:確か今はボケていらっしゃるのでは…

ゲンマ:(プレイヤー発言) 国王にコネあったーww

レン:「…あれ？ 国王の名前も アルフレート？ あれ？ 同名??」

リュウ:「国王と知り合いなの!？」

ペンティーア:「ああ、昔ちよいとな。あいつに話しておけば平気だろ」

ゲンマ:「成る程、実質金持った冒険者と変わらんつつ—事か、偉い奴が来たの—」

ユーリイ:「なんかこいつ、やばい気がしてきたんだが…」こそこそ

ジャック:「(いや、街のど真ん中で名乗っていたのにそのあと調査依頼が来たんでやす。国王の知り合いって言うのは嘘でやすね。とにかく城に連れて行けばいいでやす)」

リュウ:「(うーん、どっちにしろ駆け出しである僕らには荷が重すぎるような、)」

レン:「(とりあえず あとはお偉いさんにまかそう(´ー´)ドヤッ!」

GM:皆がそれぞれの印象を抱く中、いきなり下で、悲鳴が上がります!!!!!!!!!!!!

??? :「た、助けてくれーっ!!!!」

リュウ:「!？」

ゲンマ:「何や!？」駆け下りて行きます

レン:「!？」

ユーリイ:「!？なんだ!!」

GM:悲鳴は、船から少し離れた陸地から聞こえます。降りるなら、キャプテンがはしごを下ろしてくれます。

リュウ:同じくピョンピョンと駆け下りていきます

ゲンマ:「なんやなんや!？」降りてって

ジャック:「あの悲鳴は何でやすっ」といってキャプテンがどうするか見ます

ユーリイ:「いったいなんだってんだい!？」

レン:「悲鳴がありましたよね?」

ペンティーア:「ん?なんか騒がしいな」

GM:ペンティーアが外を見ると、商人の様な人が蛮族に襲われているようです。

レン:「ば、蛮族だ〜」Σ(￣ε￣;|||…

ペンティーア:「お〜お〜。蛮族か」

ペンティーア:「おいお前等。悪いんだが、あいつら片付けてきてくれ」

ユーリイ:「お前はいかないのか？」

GM:ペンティーア「あの程度なら、お前達でも充分だろ」

リュウ:何体ほどか分かりますかね？

GM:蛮族は、同じ種類のものが四体です。

レン:「あなたも手伝えば あの商人さんを助けやすいんですけど」

ペンティーア:「俺がやってもいいが…周りへの被害が半端無いからな。ガレオンも傷つけないし」

レン:「なら良いです」

ジャック:「(どうやら善人って感じじゃないっすね。やっぱただの海賊じゃないっすか?)」

ペンティーア:「悪いな。代わりに、今日の宿代と飲み食いの金は全額支給してやるよ。今夜は派手に飲もうぜ」

GM:ちなみにペンティーアが魔法を撃ったら半径一キロ穴だらけだぞ♪

リュウ:うわあい

レン:(プレイヤー発言) どんだけ(((( ; °Д°)))がクガクブルブル

ユーリイ:推定15レベルかよ w 魔法制御くらいとっとけよ w

レン:(プレイヤー発言) まさか誘導すらないのか

はっはっは！皆良い具合にキャプテンに驚いてますね！その内キャプテンのキャラシーちゃんを作ろうかな〜(実は作ってないです、はい;)

レン:>ユーリイ「あの蛮族 何言っているか わかります？」

ユーリイ:話し声聞こえますか？

GM:汎用蛮族語が使えれば、聞こえますよ。

ユーリイ:じゃあ聞こえますね。なんて言ってます？

蛮族:「うけけけ〜！身ぐるみ剥いだ後皆殺したゴブ〜(汎用蛮族語)」

ゲンマ:「なんや偉いこっちゃ！ オルア糞蛮族！こっち向かんかい！！」突進しながら

ユーリイ:「助けに行かないとまずそうだね。みんな行くよ！！」

ジャック:「とにかく見捨てるわけに行かないでやす。すぐむかうでやす」

リュウ:「怖くない怖くない(ブツブツ)」と言いながら蛮族に向かっていく

GM:ではでは、戦闘と参りましょう！

・初陣、vsゴブリン！！

GM:今回は、簡易戦闘で行います。まずは魔物知識判定からですね～達成値は5/10

GM:【魔物知識判定】(セージ or ライダーLv+知力B+2D)

一同:ころころ…弱点看破！

GM:ほい、弱点まできっちり割れましたね。蛮族はゴブリン、数は四体。弱点も割れてるので、魔法ダメ+2になります

レン:(プレイヤー発言) ガンの威力 UPww

ユーリイ:お次は先制判定？

ゲンマ:そりゃあ推定15レベルぶつけるには弱いのおw 先制良いでっか？

GM:どうぞ～【先制判定】(スカウト or ウォーリーダーLv+敏捷度B+2D)

一同:ころころ…失敗！！

ゲンマ:アカンやつやこの出目…

GM:レン:(プレイヤー発言) ありゃ先手とれずか

ユーリイ:ラックの効果使います

ユーリイ:2D6+2 合計:11 <6,3>+2

ユーリイ:よっしゃー

ル=ロウド様の本気を見た…ラック恐るべし！

GM:ほい、では皆から先行！上からゴブ ABCD です！

ジャック:じゃ、後衛スタートでいいかな

ゲンマ:ひとしきり支援なり終わってから殴り掛かりまっさ

ユーリイ:では、Fプロからですかね？

GM:>ユーリイ ほいほいどうぞ～！

ユーリイ:2D6+4 合計:13 <3,6>+4

GM:おっけい！

ユーリイ:全員、被ダメ-1ですよー

ジャック:ゴブは前後に分かれてます？

GM:別れてるね～

ジャック:じゃビーストスキン使用して前に移動。Aを殴ります

ジャック:2D6+4 合計:15 <6,5>+4

ジャック:R21C11+5 合計:8 <[2,3]> = <3>+5

GM:防護点引いて6点もらうよ～。次どうぞ！

レン:(プレイヤー発言) 3m前進制限移動し、ソリッドバレットでゴブA攻撃いきます

レン:2D6+6 合計:13 <4,3>+6 命中！

レン:R20C10+6 合計:10 <[3,3]> = <4>+6

GM:ほい！10点ジャスト撃沈！

ゲンマ:あ、ゴブ落ちてら

リュウ:おお!

GM:「ごぶっ!」ゴブ A は胸に弾丸を食らって倒れた!!

ユーリイ:「レン。やるな!!」

ゲンマ:じゃあ次わしでいくわ。B に接敵、ガゼルフット発動 ハードノッカー×2 や

GM:ほいほい! 命中どぞ

ゲンマ:2D6+5 合計:9 <3,1>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:8 <1,2>+5

GM:二発とも回避~ゲンマの拳は惜しくも空を切る!

ゲンマ:アカン奴や...

リュウ:どまい。ではごぶりん B に対してエネボル!

リュウ:2D6+6 合計:9 <2,1>+6

リュウ:R10C13+6 合計:8 <[2,2]> = <1>+6

GM:抵抗して4点だめ

GM:ではこちらの手番!

ゲンマ:っしゃ来いやおら!

GM:まずゴブ B! 目の前のゲンマに攻撃! 命中力10! 回避いってみましょう!

GM:【回避力判定】(回避力+2D)

※回避力=ファイター・グラップラー・フェンサーいずれかのLv+敏捷度B

ゲンマ:やっぱり来んな!

リュウ:www

ゲンマ:2D6+6 合計:14 <6,2>+6

ゲンマ:ガゼルフット込みやから大抵は回避できるわ

GM:ぐぬぬ...ではゴブ C! 前進してジャックに攻撃!

ジャック:2D6+4 合計:15 <5,6>+4

ジャック:回避成功「あたらないでやすっ」

リュウ:安定してますねえ

GM:ぬぬぬ...D もジャックに攻撃だ~

ジャック:2D6+4 合計:9 <3,2>+4

GM:命中~ 2D6+2 合計:9 <5,2>+2

リュウ:被ダメー1ですよー

ジャック:「効かないでやすっ」防護点 10

GM:.....え?

ユーリイ:かってえ w

GM:み、皆の番だぞ~~~~(ピョッ

ゲンマ:さっそく B に殴り掛かりまっさ!

ゲンマ:2D6+5 合計:15 <5,5>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:10 <3,2>+5

GM:片方当たり！ダメどぞ

ゲンマ:R10C10+4 合計:7 <[1\_6]> = <3>+4

GM:ほい、防護引いて5ダメもらった！

ジャック:では B なぐり

ジャック:2D6+4 合計:8 <2,2>+4

ジャック:はずれー

リュウ:じゃ、いきますーB にエネボル！

リュウ:2D6+6 合計:10 <1,3>+6

GM:抵抗～

リュウ:R10C13+6 合計:9 <[2\_4]> = <3>+6

GM:切り上げで5点もらった！のこり2！

レン:(プレイヤー発言) ソリットバレットで B に攻撃

レン:2D6+6 合計:11 <1,4>+6

レン:R20C10+6 合計:17 <[6\_4],[3\_2]> = <8,3>+6

GM:うははーい wwwwww 脳天に見事なヘッドショットをくらって、B 撃沈！

レン:(プレイヤー発言) こりゃ C か D に撃った方が良かった出目だな

リュウ:「レンすごい！」

ユーリイ:脳漿炸裂ゴブリンとな

ゲンマ:見事なり

GM:お次どうぞ！

ユーリイ:では、C,D にバニッシュ

ユーリイ:2D6+4 合計:11 <5,2>+4

ユーリイ:2D6+4 合計:12 <5,3>+4

GM:両方抜いてるね～、効果の 1D どうぞ

ユーリイ:2D6 合計:3 <1,2>

ユーリイ:2D6 合計:8 <6,2>

GM:ほい、では C はバーサーク化。命中+2 の回避-2。D は命中回避-1だね

ユーリイ:やっぱり先にやっといたほうが良かったなー

ゲンマ:やったー攻撃が当たる

GM:ではこっちの番。C がゲンマに攻撃！命中12！

ゲンマ:2D6+6 合計:17 <5,6>+6

ゲンマ:ギャー来んなー！ひよい

GM:D はジャックへ！命中9

ジャック:2D6+4 合計:12 <6,2>+4

ジャック:「あたらないでやすっ」

ユーリイ:全力で避けたな w

GM:ゴブズ「ごぶーっ！！」(涙目。皆の番ですよ～

ゲンマ:C を殴ります

GM:どぞ!

ゲンマ:2D6+5 合計:11 <3,3>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:11 <2,4>+5

ゲンマ:R10C10+4 合計:7 <[5\_1]> = <3>+4

ゲンマ:R10C10+4 合計:5 <[1\_2]> = <1>+4

GM:差し引きして、合計8ダメ

ジャック:同じくCに殴り

ジャック:2D6+4 合計:12 <3,5>+4

ジャック:R21C11+5 合計:21 <[6\_6],[2\_6]> = <10,6>+5

ジャック:まわった-^^

GM:な-----www ジャックの鮮やかな斬撃でミンチにされまちた

ゲンマ:大人しくD殴ってれば良い出目でしたね www

GM:う~魔法組かもん!

リュウ:りよかいです!Dに向かってエネボル!

リュウ:2D6+6 合計:11 <2,3>+6

ゲンマ:>レン つまりこのパーティ弱ってる奴に強い?

GM:ほい、抵抗抜いた!クリ10でふってくださいな

リュウ:R10C10+6 合計:9 <[6\_1]> = <3>+6

GM:追加2ダメで11!のこり5

リュウ:「やった!効いてる!」

レン:(プレイヤー発言) デリンジヤーが弾切れしたのでガンベルトから弾補充

GM:ほいほい

ユーリイ:私はカカシですねー

GM:ではこちらの番!一ダメでもほしいよう!ゲンマに攻撃!命中9

ゲンマ:2D6+6 合計:9 <1,2>+6

ユーリイ:w

ゲンマ:同値 あっぶね~

リュウ:ゴブリン涙目w

GM:oh...さあ一皆の番だぞ~

ゲンマ:このRでガゼルフット切れる...殴りまっさ。

GM:どぞ

ゲンマ:2D6+5 合計:11 <2,4>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:14 <3,6>+5

GM:命中~

ユーリイ:やったか?

ゲンマ:R10C10+4 合計:0 <[1\_1]> = ファンブル!

ゲンマ:R10C10+4 合計:8 <[6\_2]> = <4>+4

リュウ:ごじってん~

GM: のおおおお……

レン: (プレイヤー発言) でもトドメさしたね

ゲンマ: やったか! ?って言うたら外すやへん ww

ユーリイ: フラグは折れちゃったか

GM: フェイントを織り交ぜた攻撃で D 撃破!

ユーリイ: >ゲンマ 五十点オメー

ゲンマ: 「よっしゃあ! (実は単に空ぶっただけなんて絶対言えん……)」

GM: ほい、ではでは剥ぎ取りたーいむ

一同: ころころ……

GM: ほい。報酬は共有メモに纏めるね~

リュウ: あ、その間に魔香草つかってもいいですか?

GM: ほい~

ジャック: 草使うならレンジャー技能あるから私がやりますよ

リュウ: あ、じゃあお願いします ジャックさん

ゲンマ: もう遅いんじゃない……?

ジャック: もう一個使います?

ユーリイ: >GM どうします?

ジャック: 私は草持ってない^^

GM: ふり直し。。。おっけい!

ジャック: では

ユーリイ: 有情だー

ジャック: ROC13+3 合計: 3 <[1,2]> = <0>+3

ジャック: ボーナスのみ 3 点^^

リュウ: ありがとー^^

**皆にはのびのびセッションしてもらいたいからね~。多少の事はおっけい精神で行きます。**

GM: さてさて、では皆さんは、蛮族を蹴散らし、商人を助け出す事に成功しました。

ゲンマ: 「っハー、地味にしぶといやっちゃで……」

ジャック: 「しかし、何でこんな所にゴブリンがいたでやすかね?」

GM: 商人さんは、ダーレスブルグに向かう最中に蛮族に襲われ、逃げ回ってたみたいですね。

ゲンマ: 「あいつら神出鬼没や。」

レン: 「無事でよかったです」

GM: 「ありがとうございます」ぺこぺこ頭を下げる商人さん。

リュウ: 「大変だったんだねえとにかく無事でよかった」

ユーリイ: メタるとこのあとは睡眠取りそうなんですよねー

GM: 「せめてものお礼に……」と、商人さんは皆に魔香草を二つくれますよ

ユーリイ: 「おお! ありがたいねえ」

ジャック:報酬要求する前に安く提示されてしまったー^^

ゲンマ:「あれま、こりゃあええのう」

リュウ:「ありがとー！」

GM:そんな所に、船からキャプテンが降りてきます。

ペンティアー:「よっと。お疲れさん、お前等なかなかつよいじゃねえか！」

ジャック:「ゴブリン相手なら危なくはないでやす」

レン:「ハハッハハ」(“▽”)

リュウ:「いやいやそれほどでもー(テレテレ)」

ユーリイ:「まあ、こんくらいならねえ・・・」

ゲンマ:「えーと、ゴブリンぶちのめす前はどんな話してましたっけ？」

レン:「冒険者の宿に行こう 国王とは知り合いっぽい だったような」

ペンティアー:「お前等に頼んで正解だったみたいだな。今日は良い日だ！はっはっは！」

ジャック:「じゃ、このまま王宮にいくでやすよ(あっしはその間に船のお宝をいただいておくでやす)」

リュウ:>ジャック 「(ダメだよジャック絶対マーキングがついてるよ)」

ユーリイ:>ジャック メテオストライクが降ってくるぞ w

GM:キャプテンが豪快に笑っていると、エストが戻ってきました。

エスト:「戻りました、マスター」

ペンティアー:「おうエスト。伝令ご苦労さん」

GM:エストは、ダーレスブルグの王城に行き、王様に話を付けてきた様です。

ゲンマ:「せや、酒場まで船長さん連れてくって話やったかのう」

エスト:「加えて、皆さんの依頼ですが、依頼主のマグダレーナ姫にも話を付けてきました。店主さんに話をすれば、報酬は支払ってくれるそうですよ」

レン:(プレイヤー発言) 依頼主 姫さんかよΣ(°ロ°);

ゲンマ:「まあ確かに妙な形とはいえ調査も終わってしもうたのう」

ジャック:「それじゃ報酬は 500G どまりっすねえ、残念でやす」

ユーリイ:「ホントこいつ何もんだ？」

ゲンマ:「今の所自称海賊の金持ちでわし等のパトロン予定者やな。 よろしくお願ひしまっせ先生」

レン:「・キャプテン・ペンティアー

・ショーウィ・ガレオン”の船長にして、“ヴェルダー海賊団”の団長

・使い魔の鳥:エスト

・【ラクシアーのお宝】と呼ばれる宝を探しに来た

・10億 G 程の金銀財宝があり、宝の報酬として渡すらしい

・上記は宝発見の報酬であり、まだまだ財宝を持っている可能性あり

・宝発見以外にもちよこちよこ依頼を出す気らしい なお 報酬を払う気はある

・ペンティアーが魔法を撃ったら半径一キロ穴だらけになるらしい

・ダーレスブルグ公国の現国王とは知り合いらしい・・・ってまとめたんですけど 無駄？」

エスト:「的確なまとめ、感謝致します」

リュウ:「さすがレン！」

ペンティーア:「ま、細かい事はいいじゃねえか！さ、ガレオンでダーレスブルグに向かうぞ！その商人！お前も乗ってけ！今日は宴だー！」

ジャック:「船カラにして大丈夫でやすか？」というか、ほんとに乗組員一人だけみたいですわ

ペンティーア:「あ？へーキへーキ。エストおいておけば俺がテレポート出来るからな。」

ユーリイ:こいつやっぱリソーサラー15はあるよう…

ゲンマ:「ま、今日の所は飲み食い無料の確約がありまっさ。つもる話はその最中ってこって」

今回はスタートが遅かったのもあって時間巻き巻き…ここから少し省略を入れました。

GM:キャプテンを連れて、「桜舞うそよ風亭」に戻った一行。

ジャック:では依頼の完了報告をして報酬と経験点をゲット

GM:コトリは面くらいながらも事情を飲み込み、報酬を皆に渡します。そしてキャプテンの奢りで宴が始まり、それは夜遅くまで続いた。これで一日目が終わり。二日目の朝を迎えます。

ゲンマ:「ヒャッホーイ、貧乏脱出やがなー！」

リユー:ちょっと用心しすぎたかなw

GM:この段階で、皆のHPMPは全快。報酬は一人頭548Gですわ

リユー:「やった！これであれもこれも買える！」

ジャック:あと1232Gか

時間に焦りつつ1日目終了…さあ何とかなるか二日目！？

#### ・報酬は言い値！？まさかの初依頼

GM:さて、明けて二日目の朝。コトリは昨日の大宴会の後でも、疲れの色ひとつ見せずに頑張ってるぞ！

ユーリイ:>GM 二日酔い判定いります？

GM:>ユーリイ ペナは無しでおっけい！RPしたければご自由に！達成値10

ユーリイ:じゃあ、生命抵抗力判定で

一同:ころころ…セーフ！

リユー:「おはよ～」寝ぼけながら下に降りてきます

ユーリイ:「おう！やっと起きてきたか」

ジャック:「今日の朝はロボビタンB12にするでやす」

コトリ:「はーい！サービスでカプセルも付けますわ」

ジャック:「カプセルつきでやすか。おお、やった。シークレットのジオOグが当たったでやす」

ゲンマ:「そういうカプセルかい！？」

レン:「zzzz」

ユーリイ:(ガチャポン…あるのかなあw)

コトリ:「確か…今応募券送ると、足パーツが当たるみたいですよ？」

ゲンマ:「・・・その応募券集めてる奴居なさそうやのう」

レン:(プレイヤー発言) パーフェクト・ジオ●グ? Σ( ㉨;) ヌオ!?

ジャック: 足のないところがいいのに・・・なんて微妙な^^

コトリ:「まあ、抽選の倍率は低そうですね～、足」コトリも苦笑い

ゲンマ:「コトリちゃんの倍率はそもそも競争率が高い上に撃沈率が規格外でっせ」

ペンティアー:「がっはっは！美味え美味え！ここは嬢ちゃんも可愛いし飯もうまいな！気に入った！」

GM: キャプテンは朝から絶好調です。

リュウ:「朝から元気だなあ(あくびをしながら)」

ユーリイ:「おーう、エセ海賊。生きてたかー？」

ジャック:「すると今日もご飯はおごりでやすね。ありがたいでやすなあ」

ペンティアー:「おう食べ食べ！コトリに免じて奢ってやるぞ～！」

レン:「zzzz」

ジャック:「ロボビタミンEとロボビタミン食物繊維もお願いするでやす」

コトリ:「はーい！皆さんの朝食も、すぐに用意しますね」コトリはてきぱきと朝食を用意し、皆に振る舞いました。

リュウ:「お～おいしそ～」

ゲンマ:「ヒヤッホーイスパムのスパム和えスパム添えやがな～好物でっせ」

ユーリイ:「うんうん、コトリ～お前うちに嫁に来い！！」もぐもぐ

ペンティアー:「俺も、専属コックかメイドにして～なあ」がつがつ

ジャック:「なんまんたぶなんまんたぶなんまんたぶ」ユーリイとキャプテンの一言に殺気が充満する店内から退避します^^

リュウ: 第六巻を働かせ、そそくさと退散します^^

ユーリイ:「ペンティアー、コトリはやらんぞ」

コトリ:「ふふっ、ユーリイさんも船長さんも、お世辞言っても何も出ませんからね」照れながらも笑顔

ゲンマ:「ハッハッハー、この程度の小競り合いやったら週一ペースである事やがな」

ジャック:「姉さん、早いところ身を固めてくださいませ。毎週これじゃ胃がもたないでやす」

コトリに告白した男は数知れず。しかし貴族も撃沈するまさに不沈艦なのだ！

ペンティアー:「さて、飯は食ったし、そろそろ宝の話をするか。皆、一度ガレオンに来てくれ」

リュウ:「はーい」

ユーリイ:「よし、行くか！！」

ジャック: ガレオンは結局どこに止まっているんでしょう？

GM: 国の近くの森の入り口に泊めてますよ～

ゲンマ:「ほいほい、ホラ、ジャックいつまで胃痛発症しとんねん」

コトリ:「あ、皆さん。これお弁当です。お昼に食べてくださいね～」重箱を差し出しながらかみ送ります

GM: さて、皆は店を後にしました。

???:「あーっ！あんた達は！」

GM:店をでた途端に、皆は子供の声に呼び止められますよ

ゲンマ:「ん？何や？」

ユーリイ:知ってる子ですか？

GM:いえ、皆さんはその子とは面識がありません。キャプテンも知らないみたいです

ゲンマ:「誰の知り合いや？」

GM:年は10歳くらいの男の子です。

ユーリイ:「誰の子だ？」

ジャック:「どうせまた姉さんの宿に泊まってる許せない奴らとか言って因縁ふっかけられてるんでやすよ」

??? :「あんたら、昨日外で蛮族やっつけたって人達だろ？」

ゲンマ:「んあ？ せやけど？」

??? :「わーすっげー本物の冒険者だー！ カッコいいー！」男の子はぴよんぴよん跳びはねながら興奮しています。

ユーリイ:「あー。そういうタイプか……」

ジャック:「お、カッコいいでやすか？ この斧見るでやす？ ここのボタン押すとブオンって光るでやすよ」

ゲンマ:「なんやなんやおだてても何も出えへんで」明らかにうれしそう

??? :「なあなあ！ 話を聞かせてくれよ！ どんな風に蛮族と闘ったのかさ！」

リュウ:「そ、そうかな(テレテレ)」

ジャック:「蛮族がずだずだときたっす。あつしらはじゃーんといってぶおっときてがちっと撃退したんでやす。」

ゲンマ:「まーそこのゴツイ鎧とわしが突っ込んでボコスカやっ取る間に後ろから魔法でドカンやがな」

??? :「へー、へー！ そうなんだ！ すっげえ！ すっげえ！」男の子は嬉しそう

ゲンマ:(プレイヤー発言) あ、レンは一応おぶってきます。

レン:「ムニャムニャ」

??? :「なあなあ！ どんな風にやっつけたんだ！ ふりでいいから見せてくれよ！」

リュウ:「こんな感じにどーんって魔法で敵をやっつけたんだよ」(魔法球をぼっと手のひらに出す。)

ゲンマ:「おお、これはアレか？ 霸王掌吼拳の構えをいざ見せるときかいのう？」ノリノリです

GM:ふむ。では……

GM:>リュウ >ゲンマ 危機関知判定お願いします。達成値10

GM:【危険感知判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

リュウ:2D6+6 合計:15 <3,6>+6 第六感で振らせてもらいました

ゲンマ:2D6+3 合計:11 <5,3>+3

ゲンマ:キューピーン！ この感じはッ！

ちょっと補足すると、ここでは武器を少年に見せたPCに危機関知を振ってもらう。誰も見せなかったらブラインド2dで決定……だったんですが、なんで毎回シャドウとタビット……勝てるわけないじゃん(涙)

リュウ:「うん？ なんかいやな感じが、」

GM:ほい、では。二人は男の子から武器を盗まれそうになったけど、とっさの判断で回避しましたよ

GM:「くそ！失敗した！」

ゲンマ:「又！何や！？」蹴り払います

???:「もらうもんか！」男の子は軽業でひょいっとかわします！

???:「畜生～おぼえてやがれー」

レン:「zzzz」

ユーリイ:「おやおや…捕まえるか」

GM:怒られる前に、男の子は脱兎の速さで逃げ出します。

レン:「フム～うるしやいでしゅね～…ん？ なんか あったの？」

ジャック:「何やってるでやすか」

ゲンマ:「なんやけったいなガキやのう、面あ覚えとくか(これは黙っておくかいのう。危うく指引っ掛けられかけてた事は…)」

ペンティアー:「やれやれなガキだな。冒険者相手に武器を盗もうなんてな。はっはっは」

GM:キャプテンが高笑いしていると、どこからかやってきたエストが肩にとまり、ため息を吐きます。

エスト:「やれやれなのは貴方ですよ、マスター」

ペンティアー:「あ？どういうことだ、エスト？」

エスト:「…盗まれてますよ、銃」

レン:「え？」(自分の銃に手をかける)

ゲンマ:「え、先生マジで？」

ペンティアー:「あ？…ああああああああああ！！！！」身体をまさぐり、絶叫を上げます。

リュウ:「海賊なのに、、、海賊なのに、、、(プルプル)」

ユーリイ:「…こいつ、大丈夫か…」

ジャック:「まあ、銃ならマジテック技能がなければ使えないから危なくはないでやすかね」

ペンティアー:「そういう問題じゃねえ！あんの…クソガキ～～！！！」

GM:キャプテンは怒ってそよ風亭に戻り、コトリに怒鳴りつけます。

レン:「(昨日から思うんだが、海にいないなら空賊じゃあないの?)」

ゲンマ:「アカンやのう、ちょっと探し出してとっちめたりまっさ。」

ペンティアー:「おいコトリい！ユーリイ達に依頼だ！俺の銃盗んだガキをふんじばる！報酬は一人500だ！いいな！」

コトリ:「え？えっ？ええええ??？」コトリも突然の事で目を白黒させてます。

ユーリイ:「…やれやれだねえ」

レン:「やっぱり 盗難品奪還依頼かよ」ヤレヤレ

ゲンマ:「わし個人はうけまっさ、他はどないするきに？」

リュウ:「僕も受けるよ、大変そうだからね」

ジャック:「あっしらもう駆け出しじゃねえでやすよ。相場は一人 1000 でやすかねえ」

ゲンマ:「ジャック、依頼は盗品探しやで、流石にそれはたかり過ぎや」

レン:「僕ら以外の駆け出しなら良いんじゃないやね その値段で」

ジャック:「何いってるでやす。レベル 15 冒険者の持つてる銃でやすよ。売れば 10 万ガメルくらいしてもおかしくないでやす」

ユーリイ:「仕方ないね。受けてやろうじゃないか」

ペンティアー:「あ？1000か！？1000ならやるんだなわかったくれてやるやれ！」

レン:「上がった」Σ(°Д°) 又オ!

リュウ:(ジャック、、、がめついなあ、、、)

ゲンマ:「フム、一理ある上に依頼人が了承してしもうたのう。しゃあないなこりゃ。もうけ」

レン:(そこまで金がほしいのかよ)

ジャック:「もらえるものはもらうでやす」

エスト:「・・・すみません、皆さん。不甲斐ないマスターの後始末、お願いできますか？」

ユーリイ:報酬アップやったー

GM:てなわけで、皆さんは依頼を1000Gで受けることになりました。

レン:(交渉成立してるから良いけどさ)

良識的なこれくらいの交渉ならホイホイ受ける豪快な男！それがキャプテン・ペンティアー！・・・お金持ちはスゴイね。さあ！後半の目玉、探索ミッションだ～！

### ・追跡！説得！・・・カツ〇げ！？

GM:てなわけで、探索ミッションです！準備するよ～

北外郭部	貴族住宅地	城門付近
商店街	中央広場	一般住宅地
南外郭部	南門前	貧民区域

#### 【探索クエスト】

午前9時スタート。

移動に10分、加えて探索判定をする場合は10分。

PTの分散は自由。

一般住宅街からスタート。

探索判定で達成値10以上でヒント

動けるのは一回に1マス。

斜め移動不可

前回の反省を含めて、移動時間も10分をはじめとして少々修正。これでスムーズに行くといいけど・・・。  
とりあえず第一グループの皆さん。ごめんなさい(涙)

ゲンマ:ほうほう、大体分かった。

ユーリイ:なるほどなるほど

リュウ:なるほどー

GM:質問合ったら遠慮無く聞いてくださいね

ユーリイ:二手に分かれて上下を調べるのが良さそうですねー

リュウ:盗賊ギルドはどこにあるんですか？

GM: 盗賊ギルドは無いですね。緊急事態なので、聞いている暇ないって事で。

リュウ: 了解です

皆さん結構シティーアドベンチャー意識がありますね～！・・・個人的にはもっと小難しいのがシティアドのイメージなんですけど・・・これもそっちにカテゴリズされるのでしょうか？(汗)

ゲンマ: ふむ、それじゃあ出来るだけ手分けして探すべきやの。自分以外はツーマンセル組みまっか？

ジャック: 子供がどっちに逃げたかと、身なりがどんなだったか教えてほしいです。それと、探索はレンジャー不可でしょうか？

GM: 身なりは、ぼろ布を着た男の子。探索はレンジャー採用おk。どっちに逃げたかは、一般住宅地で聞いてみましょう！

ゲンマ: つまりレンスカを3手に分けたツーマンセル×2+ソロ1が効率良いかのう

GM: 【探索判定】(スカウト or レンジャー or ミステックLv+知力B+2D)

ジャック: 移動と聞き込みそれぞれ個別に10分です？

GM: >ジャック そうですね。

GM: では、第一ターンです。どう動きますか？

ジャック: 「基本的には捕まえて取り戻せばいいと思うのですが、転売されてしまうと面倒でやす。あっしは急いで商店街に向かいたいでやす」いきなり中央広場移動でいい？

GM: おっけーい！

ユーリイ: では他は判定第一回やりますか

(ころころ・・・)

ゲンマ: 2D6+3 合計: 15 <6,6>+3

レン: 2D6 合計: 2 <1,1>

ユーリイ: 出目あらぶりすぎ w

ゲンマ: さて、クソガキはどっち逃げてん？

GM: ゲンマが自動成功したので、一般住宅地の情報開示。

道行く一般人: 「ああ、あの子なら、貧民区域の方に向かったな」以上。開示終わり

これを受けたユーリイ達四人は貧民街へ移動～。

GM: ほい、ではジャック以外は移動で2ターン目終わり！

ジャック: じゃ、こっちは探索せずにそのまま商店街移動

GM: ほいおっけい。では3ターン目

リュウ: 聞き込み開始い

四人: (ころころ・・・) 成功！

ジャック: 探索+武器の買取りしてる店に事情を話して犯人を依頼します。国家権力ちらつかせて。国王の客人ですよ^^

ジャック: 2D6+3 合計: 12 <4,5>+3

GM: はい、各エリア情報開示ですね(しかし出目がすごい…。では、貧民区画から行きましょう。

貧民のおじさん: 「銃をもったぼろ布の子供? ああ、コウの事か」

リュウ: 「その子がどこにいったか知らない?」

おじさん: 「あいつなら、商店街でかくまってもらってから南門を通過して外に出るって言ってたな」

ゲンマ: (プレイヤー発言) 何このピンポイントショット

ユーリイ: ピンポイントで来た w

レン: (プレイヤー発言) ジャックさんの商店区域急ぎが正解とはw

おじさん: 「“これで家族の為になる”とか言ってたけど…何考えてるのかね」以上、情報終わり。

レン: 「安易に考えると売った金で…あたりかな?」

リュウ: こりゃ意外と速く終わりそう

いやホント…ここまであっさり看破されるとは…。皆の推理力流石です。

GM: ではお待たせしました。商店街行きましょう。

ジャック: はーい

武器屋のおばちゃん: 「ああ、そりゃコウの事だね。あの子ならさっきここに来たよ」

ジャック: なんて足の速い

おばちゃん: 「武器売るついでにかくまってくれて頼まれたんだが…どうも悪いことしてそうだったからねえ。説教してやったら、悪態つきながら逃げてったよ」

ジャック: 正しいおばちゃんだ

おばちゃん: 「…あんた、あの子を追ってるのかい?」

ジャック: 「持ち主がちよっとしやれにならないでやすから、大事になる前に取り返さないといけないでやす。依頼内容は武器を取り戻すことだけでやす」

レン: (プレイヤー発言) 城門に行った可能性を疑い中 別の所で売ったかは?

おばちゃん: 「…あの子はね、この前両親を蛮族に殺されてから、たった一人の妹と二人きりになっちまったんだ」

ユーリイ: (プレイヤー発言) ストリートチルドレンみたいなものかな?

おばちゃん: 「しきりに“妹は俺が守らなきゃ”って言って、大分せっぱ詰まってたから…無茶しなきゃいいんだが」

ジャック: 「とはいえ手段がかなり荒っぽいでやす。お金でなく武器を狙うような危険に心当たりあるでやすか?」

レン: (プレイヤー発言) 冒険者の武器で復讐か…よりによってマギ無だと無力のガンを…

ゲンマ: (プレイヤー発言) あ、やっぱりそういう発想になるね

おばちゃん: 「なあ、あんた。こんな事言えた義理じゃないんだが、あの子を見つけたら、力になってやってくれないかい?」

ジャック: 「身に危険があるのなら助けてやるでやすよ。あつしも国を失った身でやす。」

GM: 「あの子は、根は優しい子なんだ。蛮族相手に無茶なんかしたら、可哀想すぎるんだよ…この通りだ」頭を下げる

**ジャック**:「とりあえず坊主がいる場所に心当たりあるでやす？妹ちゃんが普段いる場所とか」

**おばちゃん**:「コウは、南外郭部の方へ向かったと思う。すまないが、よろしく頼むよ」ほい、以上情報終了！

この後、ジャックは南外郭を回ってから他メンバーと合流を。ユーリイ、ゲンマ、リュウは南門へ、レンはブラフを警戒して一般住宅地を經由しながらまだ未探索の城門へ向けて移動を開始～

**GM**:では皆さん移動で。その場で聞き込み or 移動どうぞ～

**ゲンマ**:なるようになるか。南門探索判定しまっさ

**南門組**: (ころころ…)ゲンマ、ユーリイ成功！

**南外郭(ジャック)**: (ころころ…)失敗！

**リュウ**:2D6 合計:2 <1,1>

**リュウ**:まさかの1ぞろw

**ユーリイ**:>**リュウ** 五十テーん

**ゲンマ**: (プレイヤー発言) >**リュウ** 50点成長したよ！やったね！

**リュウ**: (プレイヤー発言) 失敗から学ぶこともある(キリッ

**レン**: (プレイヤー発言) そのまま城門付近へ行く

**GM**:ほい了解。では、南門情報開示ですな

**ゲンマ**:さて、どや？

**GM**:三人が南門に向かうと、向こうから先程の少年、コウが駆けてきます！

**GM**:たつたつたつたつた……

**リュウ**:「あっ！見つけた！あのこだよ！」

**GM**:三人と目が合ったコウは、ぎくりとしながら、全力疾走で逃げようとしています！！

**ゲンマ**:**GM**,手加減攻撃宣言できまっか？

**ユーリイ**:「ひとつらえろー！！」

**リュウ**:スリープはいけますか？

**ジャック**:殴る気満々だー^^

**GM**:どうぞ～！回避7！**リュウ** 抵抗は9！

**ゲンマ**:じゃあ自分から先の判定で。投げ使います

**ゲンマ**:2D6+4 合計:11 <1,6>+4

**GM**:ほい命中！

**リュウ**:当たったならいいかな？

**GM**:**ゲンマ**に投げ飛ばされたコウは「ふげっ」といいながらひっくり返ります。今ならおさえつけられますね

**ユーリイ**:そのままジャーマンスープレックスだー

**ゲンマ**:じゃあまず転倒入りま。で、威力0のダメージ

**ゲンマ**:R0C12+4 合計:4 <[2,2]> = <0>+4

**GM**:痛い！コウ君泣いてまう wwww

**ゲンマ**:おし、そのまま腕ひしぎで押さえまっさ。

リュウ:回復してあげてー！

ゲンマ:これでも最低ダメージや。きばり！

まさか本当にダメージまで入れてくるとは・・・(笑)10歳の男の子に手加減ないのう

コウ:「いてててて・・・はなせ・・・はなせ～」じたじたばたばた

ゲンマ:「ほれほれ抜けられまい。さ、先生から盗ってった銃は何処やってん？」

ユーリイ:「・・・回復だけはしてやるか」

GM:レン、ジャックの二人は、ゲンマが押さえてくれてる間に、エストが飛び回って伝えてくれました。合流していいですよ～？ちなみに合流した段階で、ジャックが持ってた情報も共有したってことで。

レン:その辺のオバサン「きゃ～！ アロハシャツの海パンシャドウが子供を襲ってる～！！！」

ユーリイ:ウーンズ使います(行使成功。7点回復)

GM:わあい

レン:「あれ？無難に南門来てたか」

ユーリイ:「全く、手をかけさせよって」

ゲンマ:「ここやと何やな、ちょっと路地裏行こか」

ジャック:「妹ちゃんを守ってなきゃいけないぼんがこんなところで何やってるでやんすか、まったく。」

リュウ:あ、これ傍からみたらアウトなやつだ

ユーリイ:大の大人が子供に寄ってたかってw

ゲンマ:(プレイヤー発言) 元々変質者やけどホンマに変質者になってもうた

リュウ:(プレイヤー発言) (その中にウサギさんを含む)

GM:まあ、周囲の目はこの際スルーでww

ジャック:「なんで武器を盗んだか理由があるならいうでやんす」

コウ:「離せよ、離せよ～！妹が待ってるんだよ～！」

ゲンマ:ま、固めた腕は放さないけど痛くない様に固め方は変えます。事情聴取だ

ジャック:「どこで何を待ってるというでやんす。盗んだ品を喜ぶでやんすか」

コウ:「そ、それは・・・」手に持ってる銃を見てうつむく

レン:「とりあえずオチツケ 話を聞こうか なお その銃を返さないと持ち主が周囲1Km を焼け野原にするから」

ユーリイ:デスヨネーw

リュウ:おおこわいこわい

コウ:「だ、ダメだよ！そんなことしたら・・・マシロが悲しむ。あいつは、あの森が好きなんだ。焼け野原にされたら・・・きっと悲しむ」

ゲンマ:「せやったら事情話してその銃返し。」

レン:「マジでそれくらいやりそうな雰囲気だったぞ・・・ﾀﾞﾝ」

コウ:「俺・・・親が蛮族に殺されたから・・・妹を守らなくちゃいけないんだ」

ゲンマ:「それと盗んでった銃になんの因縁があんねん？」

コウ:「だから、お金もいるし、守る為の力だっている・・・だから・・・」

**ジャック**:「町に蛮族はいないでやすよ。妹ちゃんを守るために必要なのは武器じゃないでやす」

**レン**:「あ～ いったくけど銃って 魔動機術の心得ないと 使えない武器だよ」

**コウ**:「…え？」

**ユーリイ**: (プレイヤー発言) まあ知らないわな

**リュウ**:「大丈夫、今返せばその持ち主の人も許してくれるよ(たぶん)」

**ゲンマ**:「さて、お前はあの持っ取る銃も使いモンにならんと分かったんや。早よ返し。」

**ペンティーア**:「やれやれ、やっとこ捕まえたみたいだな」

**GM**: エストが伝えたのか、キャプテンもやってきました

**ジャック**: きたのか

**レン**:「まあ、なんとか」(自分なにもしてないけど)

**リュウ**:「みたいです」(内心ガクブル)

**ペンティーア**:「事情は大体聞かせてもらった。…おいガキ」

**GM**: キャプテンはギラツとした眼光でコウを睨みます。コウは涙目でビクビクしてますね。

**レン**: (やっぱビビってる さっきのアレが原因かな～♪)

**リュウ**: (びくびく)

**ユーリイ**:「ガキ脅してどうすんだよ」と遮ります

**エスト**:「いいえ、**ユーリイ**さん。大丈夫です」

**GM**: キャプテンはずっと右手を振り上げ…

ぼん、とコウの頭に手を置きます。

**ペンティーア**:「…事情は聞いた。だがな、ダメなもんはダメなもんだ。悪い事したらどうしなきゃいけないか…分かるな？」優しくコウの頭を撫でる。

**ゲンマ**: 逃げる様子無しと判断して手を離します。

**GM**: コウはポカんとしながらも、おずおずと頭を下げます。

**コウ**:「あ、あの、俺…」

??? :「きゃああああああっ！」

**リュウ**:「!？」

**GM**: 突然、門の外から叫び声が!! 聞いてみると、少女の悲鳴の様です。

**ジャック**: 見物人「ガラの悪い海賊風の男が子供に襲い掛かっているわあああ」

ちがーう!! (笑)

**リュウ**: 門のほうに目を向けます

**GM**: コウ「この声…マシロ!？」

**ユーリイ**:「むう、なんだ?」

**ゲンマ**:「…先生、ここ頼んま!」駆け出します

**GM**: いうが早い、コウ少年は門の外に駆けだしていきますね!

**ジャック**: おいかけますよ。どすどす

**リュウ**: 追いかけてます。ピョンピョン

ユーリイ:「あ！おいこら待て」

GM:コウ君は足が速いから、どんどん行っちゃうぞ～！

ジャック:全力移動っ

ゲンマ:自分それに追いつがる感じですかね？

ユーリイ:追いかけるー

レン:(プレイヤー発言) 全力移動 10 秒で 75mです

ジャック:10 秒で 42m はしっちゃうゾ

さあいよいよクライマックス！！・・・しかし 10 歳の子供を囲む海賊の団・・・スゴイ画ですね～(苦笑)

・マシロを救い出せ！

GM:では、コウ君を追いかけて外に出ると、一人の少女がまたまた蛮族に襲われています。

ユーリイ:ですよねー

ジャック:街のすぐ外に蛮族が出るって、見張りは何してるんだ・・・

GM:数は三体。内2体は、昨日もいたゴブリン達ですね～

レン:「ゼイゼイ 足 早え～」

リュウ:「も、もう無理(ゼエゼエ)」

コウ:「マシロ・・・マシロ！」

GM:どうやら、蛮族に襲われそうになってるのが、マシロちゃんみたいですね

ゲンマ:「おるあああああ！」蛮族との間に割って入ります

ジャック:走りよった速度そのままに高くジャンプして 3 回回転しながら斧を振り下ろして攻撃します^^

GM:ふむ・・・。回避 10 で命中判定しようか？www

ジャック:いいの？^^

ジャック:2D6+4 合計:9 <4,1>+4

ジャック:盛大にスカッタ

GM:では、ジャックのダイナミックな攻撃で、蛮族達が避けざるを得なくなって、マシロを助けたことにしよう！

ジャック:「れ、れんしゅうしたのにいいい」

リュウ:「ジャ、ジャック、、、(涙)」

ここで決まったら更にかっこよかったんだけどねえ・・・。ダイスの女神はいつだって気まぐれです。

親玉蛮族:「ああ？なんだてめえ等は！？(交易共通語)」

ゲンマ:「正義の味方つつたら満足かワレエ！？」怒鳴り返します

ユーリイ:「ほら、もう大丈夫だ。お兄ちゃんとあっち行ってな」と言って少女を保護。離脱させます

マシロ:「う、うん・・・」その場を離れる。

リュウ:息を整えて、発動体をかまえます

レン:「蛮族が交易共通語しゃべってる～」Σ(¯ε¯;|||…(エルフ語で)

GM:おっけい!

レン:「下級じゃあないのかな?」(魔動機文明語で)

親玉蛮族:「食事の邪魔をするとはなあ…俺が“ポリョック”の行動隊長と知っての蛮勇かあ…?」

レン:「知らん!」

ユーリイ:知識判定 OK ですか?

リュウ:gm,そのことをしてますか?

GM:んでは“ポリョック”に見識いきましょ、達成値16

リュウ:よっしゃいくぞー

ユーリイ:2D6+3 合計:5 <1,1>+3

ジャック:2D6 合計:5 <3,2>

レン:2D6 合計:5 <1,4>

ゲンマ:2D6 合計:3 <2,1>

リュウ:2D6+5 合計:8 <2,1>+5

ジャック:みんなやるきなさ過ぎ

GM:なんか、6ゾロも1ゾロも多いのう、この卓…www

ゲンマ:ていうか教養がないねん

ユーリイ:なんかもうね w

リュウ:ああ、ええっと走って息を切らしてたからしかたないね

ユーリイ:「知らんな」

まあ、ここで情報を知られても困るんですが…しかしここでの出目はホントなんなんでしょう?(笑)

GM:ともあれ、皆はマシロを助け、蛮族達に向き合います。

リュウ:(あれ?出かかっているのにでてこない…)

ゲンマ:「何がポリョックじゃ!暴力団の間違いちゃうかボケが!」

親玉蛮族:「まあいい…お前等を殺して食いでを増やせば良いことだ野郎共!やっちまえ!」

レン:「マジ知らねえ~」(魔動機文明語で)

ゴブズ:「ごぶ~!」

ペンティアー:「…オイガキ。それよこせ」

レン:「へ?」

リュウ:「え?」

ゲンマ:(プレイヤー発言) おい、ペンティアー様が直々に出るぞ…

ペンティアー:「ガキ、よく見てな。これが闘う事の辛さだ…」

GM:キャプテンはコウから銃を取り上げると、蛮族達に向かって投げつけます。

ユーリイ:その使い方ちゃう w

ゲンマ:「はい?」

レン:「撃つんじゃないの~」Σ(°Д°;) 又オ!?

そりゃ、撃ったら戦闘終わるからねえ…(汗)キャプテンは余程の事が無い限り動きませんよ～

ペンティーア:「おいお前等、悪いが依頼の内容、ちよいと変更だ。内容はシンプルに“俺の銃を取り返せ”以上」

レン:「まさか蛮族に取られた銃を取り返せ ですか？」

ペンティーア:「ああ。似たようなもんだろ？」

ジャック:「……割増料金……」

ゲンマ:「ジャック、うっさいわ…」

ユーリイ:「はあ… コイツも大概だな」

レン:「ジャックの守銭奴っぷりはもうあきらめた方が良いでしょうか？」

ジャック:「だって、あっしにもあいでんていていってものがあるんです。そのためにはあと1300G必要なんでやすよ」

ペンティーア:「ったくしゃーねえな…追加報酬“そよ風亭で宴会”。これでどうだ？」

ユーリイ:「まあ、妥当な報酬だな」

リュウ:「仕方ないね。それで手を打とうか」

ジャック:「べつに割り増しじゃなくても宴会するくせに……(ボソ)」

ペンティーア:「細かい事は気にすんな。一人エール一樽は飲ませてやるよ」

レン:「樽Σ(°Д°)!?)」

ゲンマ:「どのみちとつくの昔に売った喧嘩や。やめろと言われてもこいつらぶちのめす！」

親玉蛮族:「ごちゃごちゃうるせえ！まとめて喰ってやるぜええええ」

リュウ:「！皆！来るよ！」

GM:てなわけに戦闘開始！

ユーリイ:魔物知識判定しますー

GM:ほーい！ゴブは正体割れてるからボスだけね

ユーリイ:2D6+3 合計:11 <4,4>+3

ジャック:2D6 合計:9 <3,6>

レン:2D6 合計:2 <1,1>

ゲンマ:2D6 合計:4 <2,2>

リュウ:2D6+5 合計:11 <2,4>+5

レン:(プレイヤー発言) 2回目(・ω<) テヘペロ

ユーリイ:ホントにピンゾロ多いなこの卓 w

リュウ:(プレイヤー発言) おめ☆

GM:ふむ。では弱点は割れませんが正体判明。親玉蛮族はケンタウロス。(ルルブⅡ226)

リュウ:え

GM:ちなみに剣のかけらが二つ入ってます。

ゲンマ:割と喧嘩売ったらあかん相手やんそれー

ユーリイ:魔法が怖いかなー

ジャック:接敵したら突撃来ないから怖さ半減ですね

レン:(プレイヤー発言) ケンタは交易共通語しゃべれないみたいだけど…まあいっか

ゲンマ:(プレイヤー発言) エリートなんだよ、きっと

GM:>レン かけらのおかげで頭良くなったのだ!

ジャック:それを言ったらファミリアも魔法文明語しか喋れない

GM:では先制判定～。こっちは12だよん

ユーリイ:2D6+3 合計:12 <6,3>+3

ユーリイ:とったどー

リュウ:お見事!

ゲンマ:2D6+5 合計:7 <1,1>+5

ゲンマ:ごめん w

ユーリイ:またピンゾロ w

リュウ:またかw

GM:なんか偉いことになってるなwwwでは皆の先行! どぞ～

ジャック:ケンタウロス殴る。ビーストスキン使用

ジャック:2D6+4 合計:7 <2,1>+4

ジャック:はずれ

GM:ひよいっとな

ユーリイ:ゴブ 2 体とケンタにバニッシュ

GM:ほいほい!

ユーリイ:2D6+4 合計:15 <6,5>+4

GM:というわけで…三体共効果 2D いてみよう

ユーリイ:ゴブ A、ケン、ゴブ B で

ユーリイ:2D6 合計:11 <6,5>(逃走)

ユーリイ:2D6 合計:12 <6,6>(逃走)

ユーリイ:2D6 合計:6 <3,3>(判定-1)

リュウ:おおw

GM:…わあ

ユーリイ:出目がもうね w

ゲンマ:(プレイヤー発言) おい、ケンタウロス逃げるぞこれ wwwwww

レン:2 名ほどビビってにげだそうとするか

ジャック:おわた^^

GM:A&ケンタ「ひ、ひいーおたすけー!」

レン:(プレイヤー発言) ケンタは乱戦中だから逃げられないような?

ユーリイ:逃げられませんね w

GM:その通り、逃げられるのはゴブ A だけなのだ!

ゲンマ:(プレイヤー発言) 何がお助けやねん www

レン:(プレイヤー発言) よしケンタに集中砲火するかw

GM:でもケンタは次の手番で動けない! 後続どぞ!

ユーリイ:ほこれー!!

リュウ:怯えてるケンタウロスにエネボルで^^

リュウ:2D6+6 合計:10 <1,3>+6

GM:・・・抵抗も回避も出来ないんじゃないかな ww

ジャック:逃げるのは次の敵ターンですから、このターンはまだ回避修正かかってないと思いますけど

GM:一切の行動が出来ない・・・この裁定・・・GMは『回避も抵抗も出来ない!』とカイジャクした!

GM:てなわけではこれー!

ジャック:GMがMであることが判明した瞬間であった・・・

GM:エネボルも抵抗抜いて良いよ!

リュウ:アッパレ!

**実際、このバニッシュの裁定ってどうなんですかね・・・?教えてください偉い人(オイ**

リュウ:R10C10+6 合計:15 <[6\_5],[1\_5]> = <6,3>+6

リュウ:あ

ユーリイ:回ったーw

リュウ:「喰らえ!」

GM:痛い wwwww15てんもらった

ゲンマ:おい,

ケンタ:「うぎゃあああおがあぢゃあああん!!」

ゲンマ:おい、ワンターンキル狙えるぞこれ ww

Bさん:「た、隊長! しっかりしてください隊長ー! (蛮族語)」

レン:ケンタウロスをソリッドバレットで攻撃

GM:>レン どぞ!

レン:2D6+6 合計:13 <5,2>+6

レン:R20C10+4 合計:9 <[2\_5]> = <5>+4

GM:残り11

ゲンマ:じゃあ殴りまっさ

GM:お待たせしました! どぞ

レン:(プレイヤー発言) 素で命中か

ゲンマ:じゃあ自分、ガゼル自分に入れてからぶん殴りま

ゲンマ:2D6+5 合計:9 <1,3>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:12 <2,5>+5

GM:ファンブルってないから両方命中!

ゲンマ:ok,セーフセーフ

ゲンマ:R10C10+4 合計:7 <[5\_1]> = <3>+4

ゲンマ:R10C10+4 合計:7 <[2\_4]> = <3>+4

GM:ほい、防護は引くからのこり1

レン:(プレイヤー発言) 1 たりない

リュウ:(こりゃ尋問もできそうになさそうだなあ)

GM:こっちの手番だよ～

レン:(プレイヤー発言) 10 秒(1R)で効果切れるけどね ケンタのバニッシュ効果

GM:では、Bさんは決死の覚悟でジャックに攻撃！命中9

ジャック:2D6+4 合計:13 <6,3>+4

ジャック:「あたらないでやんす」

リュウ:(プレイヤー発言) で、ケンタくんはおびえてると

Bさん:「ごぶ～！（隊長！しっかりするゴブ！蛮族語）」

GM:ほい！皆の手番だよ～

ゲンマ:じゃあキルマーク貰いまっさ ケンタに攻撃

GM:今度は回避10だよ～どうぞ

ゲンマ:2D6+5 合計:11 <2,4>+5

ゲンマ:2D6+5 合計:13 <4,4>+5

GM:まだや・・・ピンゾロや！

ゲンマ:R10C10+4 合計:7 <[4\_3]> = <3>+4

ゲンマ:R10C10+4 合計:8 <[4\_4]> = <4>+4

GM:ですよね～wwwww

リュウ:こりゃ即死ですわ

ジャック:一発目で落ちてるか

ゲンマ:まあ冴えへんけどこんなもんやろ

ジャック:ゴブ殴るー

ジャック:2D6+4 合計:7 <2,1>+4

ジャック:はずれー

GM:Bさん・・・頼りになるのはあんただけや・・・

リュウ:じゃエネボルうちまーす

GM:あーっ wwww やめてーっ！！

リュウ:2D6+6 合計:12 <1,5>+6

リュウ:R10C10+6 合計:7 <[2\_1]> = <1>+6

GM:では弱点込み9点ダメ

リュウ:「あれれ？なんか調子が悪いな」

レン:ゴブリン B をソリッドバレットで攻撃

レン:2D6+6 合計:17 <6,5>+6

レン:R20C10+6 合計:7 <[1\_2]> = <1>+6

GM:ぴったしダウン！

レン:(プレイヤー発言) セーフ

**ジャック**:「うちとったりいい、でやす」とポーズを決める

**ゲンマ**:「ちよいちよい、キルマーク取ったん自分やで」

**レン**:「撃ちとったの 僕ですけどね」やれやれ

**GM**:ではでは、剥ぎ取りはゴブ B とケンタさんですな

**一同**: (ころころ…) 戦いの装束(30G)、武器(30G)

**GM**:ほい、剥ぎ取りは共有にかいときました～

**GM**:蛮族を倒した皆が振り向くと、そこにはコウ少年にすがりついて泣くマシロちゃんの姿が

**マシロ**:「お兄ちゃああん…怖かったよう…ふええええん」

**コウ**:「マシロ…よかった。本当によかった！」涙を堪えてマシロを抱きしめる。

**リュウ**:「あ、そうだ。ペンディーアさんの銃は？」

**GM**:>リュウ ケンタさんの横で寝てるよ～

**リュウ**:「ほっ」

**ジャック**:「これで依頼達成二つ目でやす。冒険者、ぼろい商売でやすね」

**レン**:「いやいや運良いだけだと思うぞ」

**ゲンマ**:「さて、依頼完了やの。むほ」

**ペンディーア**:「はいよ。ご苦労さん。報酬は後でコトリからもらってくれよ」銃を受け取る

**ジャック**:「では早速宿に戻って清算でやす」

**コウ**:「あ、あの…」コウくんは皆の方を向き、頭を下げます。

**コウ**:「ごめんなさい！それから…ありがとう！マシロを助けてくれて」

**ゲンマ**:「お前さんから礼言われる筋合い割とないわ。ま、今後悪事も無茶もやめとき。坊には悪人は無理やわ。」

**レン**:「ナニツテルンダイ ホクラハウハワレタ銃ヲリモトスノニタカッタダケダヨ」

**コウ**:「うん、俺…もっと別の…正しいやり方で、マシロを守れるように頑張ってみるよ！」

**ゲンマ**:「むほ、それでええねん」

**リュウ**:「ぼくらはペンディーアさんの銃を蛮族から取り返したただけだよ。まったく、勘違いしないでほしいね。」

**レン**:「ソウダヨネー」

**ユーリイ**:「ふむ、まあ気にするな、私たちは依頼を受けたただけだからな」

**コウ**:「皆…ありがとう！ほんとにありがとう」

**GM**:口々にお礼をいうコウくんを見て、キャプテンはにやりと笑います。

**ペンディーア**:「おいガキ。お前、うちの船で働く気、ないか？」

**ユーリイ**:そんな気はしてたよ w

**レン**:「そういえばあの船今、ガランドウ……」

**リュウ**:やっぱり人員不足なんじゃ？あの船

**ペンディーア**:「その代わりに、妹ともども面倒見てやる。どうだ？」

**エスト**:「マスター…人手不足なだけでしょくに」ため息

**ジャック**:「15 レベル冒険者から武器をすり取れるくらいなんでやすから見所あるでやすよきっと」

**ゲンマ**:「むほ、よかったのう。雇用条件は冒険者から見れば破格やで」

レン:「そうだね スリ能力は天才かもね」

コウ:「海賊の兄ちゃん…(涙ジワ)」

コウ:「おい兄ちゃん！ガキじゃない！俺の名前、コウだ！クルーにするなら…名前くらい、覚えろ！」

ジャック:「ツンデレか……」

レン:「悪……なんですか？ この自称海賊は？」

ペンティアー:「…へっ、はっはっはっは！いいねえ！その負けん気！気に入った！」強がるコウ少年をみて、キャプテンは目を丸くした後、豪快に笑い出します。

ユーリイ:「あまり子供を悪の道に誘うなよ」

ゲンマ:「いやへ、今の所海賊やのおて自称海賊、ただし実質男前や」

リュウ:「そんな風には、…僕には見えないなあ」

ジャック:「金持ちは余裕があっというんでやすねえ」

ユーリイ:「やれやれ……」

ペンティアー:「今日は良い日だ！お前等！コトリの店行くぞ！みんなまとめて宴だ！宴！」

ゲンマ:「歓迎会かいな？先生。」

レン:(プレイヤー発言) コウら未成年者は酒ダメよ

リュウ:「やった！今日もお酒がただで飲める！」

ジャック:「……まずは服と武器くらい買ってやるでやすよ……」

レン:「本当にエールの樽飲みさせられるのだろうか？」(((( ;°Д°)))ガクガクブルブル

ペンティアー:「あ？一樽なんて遠慮すんな！10でも100でも飲ませてやるぞ〜」

ユーリイ:「酒は好きなように飲ませていいだろう。自己管理だな」

ゲンマ:「心配せんでもワイが飲んでまうわ ガハハのハ〜」

GM:「そうしてそよ風亭に戻った皆は、今日も今日とて宴会を始めました。」

レン:(プレイヤー発言) 2日連続w

GM:「出される料理、次々に空く酒瓶、やんややんやの大合唱。」

リュウ:「ええじゃないかええじゃないかw」

GM:「キャプテンも、コトリも、コウもマシロも。皆も笑顔でいっぱいです。」

ユーリイ:「あっはっは」

ゲンマ:「そして飛ぶウクレレ」

レン:「ヒャッハー」

ジャック:「どうせあっしなんて、あっしなんて……」そんな中で一人泣き上戸

リュウ:「謎のダンスを踊るタビット」

ゲンマ:「ほんなら一曲失礼しますわ ララー♪」

GM:「笑顔が絶えない暖かい店「桜舞うそよ風亭」。今日も皆、楽しい時間を過ごしたのでした……。」

GM:「……………てなところで！セッションを終了したいと思います！お疲れさまでした〜！」

一同:「お疲れ様でした〜」

## ・リザルト&後日談

経験点 1130 点+1ゾロ分 報酬 合計1560G 名誉点8点

**リュウ**:(プレイヤー発言) こんなに質の高いセッションをしたのは初めてなので楽しかったですw

**ジャック**:最終金額は結局目的達成できなかった…あとちょっとだったのになあ^^

**GM**:>**リュウ** 質の高いセッションなんて…嬉しいのう

**GM**:このセッションなのですが、TRPG オンラインのWIKIの私のページにて、セッション内容やリプレイを編集したものを、upする予定でいます。

**ゲンマ**:ほいほい、願わくば第二話もやりたいのう。ま、そこは皆さんの都合やけど

**ジャック**:セッションやったはずなのにリプレイ上がってないと、一体何があったんだろうととても気になります^^

**GM**:…ぬおお、これは編集がんばらねば www

**ユーリイ**:頑張ってくださいねー

**GM**:そして、皆さんがもし二話目を望まれるならば、『第 2 話(第二回グループ)』という形でお伝えします。お時間があったら、是非是非参加してくださいね！

**ジャック**:はい。楽しみにしておきますー^^

**リュウ**:はい！楽しみにしてます！

**ゲンマ**:パスが入るならそれも教えてねー

**ユーリイ**:ではでは、編集よろしくお願ひします。都合がつけば参加させていただきます

**ゲンマ**:当然楽しみだ！

**GM**:この卓はしばらく開けておきます！後日談とか RP とか、やりたかったら書いてもいいですよ！

**ユーリイ**:了解です

**GM**:では最後に、遅くまでおつきあい頂き、本当にありがとうございました！次回の際にはぜひともお願いしますね～ノシ！

一同:お疲れさまでした～！

~~~~~

### ・編集後記

はい、というわけで、〈ラクシアーのお宝シリーズ〉第 1 話第二グループ編、如何だったでしょうか？

いやー読み返すと朝食シーンとか6ゾロ1ゾロの山とか…盛りだくさんの卓でしたね～。

探索ミッションに関しては修正しただけあってスムーズに出来た…と思う。まあ、同じ内容と謳っておきながら変えてしまうのもどうかとは思いますが…その辺も含めて上手く調整出来るようになりたい。

さてさて、物語は第 2 話「水の行方」へと続きます。今度はどんな話になりますやら…。

そして、春のオンセ祭りの番外編。こちらも鋭意編集中です！もう少し待ってね！

では最後に、このセッションに参加してくれた皆様！そして本書をここまで読んでくれたあなた！本当にありがとうございます！また次回お会いしましょう！！

平成 25 年 4 月 3 日(水)

「初心者GMと行く 〈ラクシアーのお宝〉シリーズ」GM ペンタコス